

# 平成二十九年 青年教学3級・初級試験 練習問題

## 立正安国論

( )の中に入る語句を答えなさい。記述問題には文章で答えなさい。

### 「1」背景と大意

(1) 立正安国論は、(①) 年 月 日)、日蓮大聖人が三十九歳の時、当時の実質的な最高権力者(②) ( )に提出された「国主(③) ( )の書」である。  
(2) 日蓮大聖人は安国論を執筆された動機について「去ぬる(④) ( )元年八月二十三日戊亥の尅(⑤) ( )を見て之(これ)を勘(かん)う(立正安国論奥書)と仰せです。  
(3) 「立正安国」とは、「(⑥) ( )を立て、(⑦) ( )を安んず」と読む。(⑧) ( )は安国の根本条件であり、(⑨) ( )は立正の根本目的である。

(4) 「立正安国論」は、客と主人との(⑩) 問 答( )の問答形式で展開され、相次ぐ災難を嘆く客の言葉に対し、主人は人々が正法に背き悪法を信じていることに災いの原因があると述べる。そして、災厄(さいやく)の元凶として、当時、隆盛を誇っていた念仏を強く破折し(⑪) ( )と断じ禁止を促している。このまま謗法に執着していくなら、(⑫) ( )難と(⑬) ( )難の二難が起ると警告し、実乗の一善(妙法)に帰依するよう促している。最後に客が謗法を捨てて妙法に帰依することを誓った言葉が、本書全体の結論となっている。

### 「2」本文について

(5) 「但(ただ)し法然聖人の(①) ( ) 現在なり諸仏・諸経・諸菩薩・諸天等を以て(②) ( )と載す、其(そ)の文顕然(けんねん)なり、茲(こ)れに因(よ)つて(③) ( ) 国を去り(④) ( ) 所を捨てて天下飢渴(きかつ)し世上疫病(えきびょう)すと」

(6) 「主人悦(よろ)んで日(ひ)く、鳩化(はまぐり)して鷹(たか)と為(な)り雀(すずめ)変(へ)じて蛤(はまぐり)と為(な)る、悦(よろ)しきかな汝(なんじ)(⑤) ( )に交(ま)りて(⑥) ( )と成(な)る」

(7) 次の御文で、客が正法を信ずると決意したことに対して、主人は「決意即行動」の実践を促します。「1」に入るその主人の言葉の趣旨(しゆじ)を、解答欄に簡潔に述べなさい。

「汝(なんじ)当座(とうざ)に信(ま)ずと雖(いえど)も後定(のちさだ)めて永(とこ)く忘(わす)れん、若(も)し先(ま)ず国土(こくど)を安(やす)んじて現当(げんたう)を祈(いの)んと欲(ほ)せば」

《解答欄》

】



(13)

大聖人の予言の的中をまとめた次の表を完成させよ。

難の名称	年月日	何年後か	予言的中の内容
自界叛逆難	(15) 年 月	12年後	(16) )
他国侵逼難	1回目 文永11年10月	14年後	(17) ) 襲来 (18) ) の役
	2回目 弘安4年6月	21年後	(19) ) の役

(14)

次の御文の【 】に入る部分で、自分個人や一家の安泰・幸福を祈るなら、まず、どうすべきであると仰せか。その趣旨を解答欄に簡潔に答えよ。

「国を失い家を滅せば何れの所にか世を遁れん  
汝須 一身の安堵を思わば【 】」

《解答欄》

(15)

「汝 早く信仰の(20) )を改めて速に(21) )に帰せよ、然れば則ち三界は皆(22) )なり(同前22) )其れ衰んや十方は悉く宝土なり宝土何ぞ壞れんや、国に衰微 無く土に破壊 無んば身は是れ(23) )・心は是れ(24) )ならん」

(16)

右の御文について、次の文章の空欄に、適する言葉を語群から選んで記入しなさい。

「信仰の寸心」と仰せになっているのは、天変地異は国土全体に及んでいるが、それを転換する根本の方途は、私たち人間の「心」、信仰の「(25) )」を改めることにあるとの意味である。すべての現実変革は、一人の(26) )に始まるのである。また「実乗の一善」の「実乗」とは法華経であり、「一善」とは「唯一根本の善」との意味である。すなわち、人間に真の幸福をもたらす、法華経の文底の(27) )こそが根本の善の教えであり、「実乗の一善」である。

《語群》

A 生命

B 宿命転換

C 法華経

D 一念

E 南無妙法蓮華経

F 変毒為薬

G 人間革命

(17)

次の御文はそれぞれ、「破邪」と「顕正」のどちらに当たるか、【 】に適するものを記入しなさい。また二つを合わせると、「立正」または「安国」のどちらかを表している。正しい方を選び丸で囲みなさい。

- ・ 信仰の寸心を改めて……………【 】
- ・ 実乗の一善に帰せよ……………【 】
- 二つの御文を合わせると……………「立正」・「安国」

次の文章の空欄に、語群から適する言葉を選んで、書き入れなさい。

仏法の精神が、その基調として脈々と貫かれていく社会は、個人が自立の(28) を得て、(29) の実現という思想が重んじられる社会である。その社会は、生命を何より尊重していく最高の文化社会であるゆえに、絶対に衰えることはないものであり、悲惨な災難や争乱の連鎖を解決する理想的な社会といえよう。

この御文で「(30) 」とあるのは、心を静めて深く思索することであるが、それは、単に何もない平穏な状態の中で安住するという意味ではない。いかなる苦難にも動じない強靱な精神が真の(同前30) )であり、また、人々の幸福、平和の社会を建設するために、どんな困難にもひるまずに戦っていける確固たる心こそ(同前30)

( )である。平和とは、自己の生命をよりよき方向へと常に向上させていくことであり、その精神を一人からまた一人へと広げていく連続闘争である。ゆえに、(31) ( )こそ平和の武器である。

《語群》

- A 戒律
- B 唱題行
- C 智慧
- D 対話
- E 自他共の幸福
- F 生命力
- G 仏国
- H 転重軽受
- I 禅定

(19) 「我一仏を信じて諸仏を抛ち三部経を仰いで諸経を闡きしは、是れ私曲の思に非ず則ち先達の詞に随いしなり、十方の諸人も亦復是くの如くなるべし、今の世界には性心を勞し来生には阿鼻に墮せんこと文明かに理詳かなり疑う可からず」

(20) 右の御文の傍線ホの先達とは、具体的には日本の浄土宗の開祖を指す。その名前を書きなさい。「 」

(21) 右の御文の傍線へに関して、日蓮大聖人が念仏宗を破折された「四箇の格言」の言葉の一つ書きなさい。「 」

(22) 「速に(32) )を回して早く泰平を致し先ず生前を安じて更に没後を扶けん、唯我が信ずるのみに非ず(33) )」

(23) 右の御文の傍線トの部分について、その趣旨を簡潔に書きなさい。

(24) 次の文章の空欄に、語群から適する言葉を選んで、書き入れなさい。  
真の納得は(34) )を生む。自他共の幸福という「立正安国」の本義を知り、そのことが自身の使命の自覚と誓いへと昇華していった時、その誓いは、自身の境涯を大きく広げ、人々に正法を語り広げていく原動力となるのである。

「立正安国論」が「主人の言葉」ではなく「客の(35) )」で結ばれていることは、



⑳ 寸心 ㉑ 実乗の一善 ㉒ 仏国 ㉓ 安全 ㉔ 禅定

(16)

㉕ 一念 ㉖ 人間革命 ㉗ 南無妙法蓮華經

(17)

・ 信仰の寸心を改めて・・・・・・・・破邪  
・ 実乗の一善に帰せよ・・・・・・・・顕正  
二つの御文を合わせると・・・・・・・・立正

(18)

㉘ 生命力 ㉙ 自他共の幸福 ㉚ 禅定 ㉛ 対話

(20) 「法然」

(21) 「念仏無間地獄」

(22)

㉜ 対治 ㉝ 又他の誤りをも誠めんのみ

(23)

「ただ自分一人が信じるだけではなく、他の人々の誤りをも制止<sup>せいし</sup>していこう」

(24)

㉞ 行動 ㉟ 誓い ㊱ 弟子 ㊲ 広宣流布